

# 台湾支部訪問



中央大学空手部

学生連盟委員 佐々木 海斗 (ササキ カイト)

経済学部 4 年 愛知県立天白高等学校出身

## 1.はじめに

2024 年 5 月 7 日、中央大学空手部の部員 3 名（経済学部 4 年 佐々木海斗、法学部 4 年高橋颯太、経済学部 4 年 前田知也）による台湾支部への訪問を行いました。台湾支部の皆様とは、稽古やお食事を通じて交流をさせていただきました。ご多忙の中、訪問を引き受けていただいたこと、厚くもてなしていただいたことにこの場を借りて厚く御礼を申し上げます。

## 2.台湾支部訪問までの道のり

台湾支部への訪問は私にとって長年の念願でありました。私が学生連盟委員に就任したのはコロナ禍真っ只中の時期であり、支部とのつながりどころか 4 大学間での繋がりですら薄れていってしまっていました。国内のみならず、世界に広がる”空手”という繋がりを失ってはいけないという思いから、就任時の所信表明では、4 大学の交流機会を増やすこと、国内外の支部への訪問を再開することの二つを目標に頑張っていきたいと話をさせていただきました。この実現に向けて、4 大学間合同稽古の企画に始まり、数年ぶりとなる支部訪問（2023 7/30~ 大阪支部、10/29~ 山形支部）を行わせていただきましたが、海外支部への訪問は実現できずにいました。その中で、中央大学の加藤監督のお仕事の関係で台湾支部の皆様との交流会があると聞き、なんとか一緒させていただきたいと考え、今回参加をさせていただきました。円安などの影響で費用が嵩むなどの問題も発生しましたが、白門飛躍基金や学生連盟からの支援によって、なんとか海外支部への訪問を実現させることができました。こちらに関しましても、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

### 3.交流会当日の出来事

#### 稽古までの時間

当日は宿泊先であった台北のホテルから逢甲大学のある台中駅まで高速鉄道（日本でいう新幹線）で向い、加藤監督と台湾支部の楊仁徳さんと合流をしました。その後、昼食を食べ、交流会までの時間で台中観光をしました。駅の中や台中の街中には日本のお店が多くあり、実際の距離だけでなく、文化的、社会的な距離感の近さを感じました。あっという間に時間が経ち、少し暗くなってきた頃には観光を終え、逢甲大学へと向かいました。大学周辺には大きな夜市があり、学生や観光客でごった返していました。大学に到着後、道場まで連れて行っていただきました。途中にはボルダリング用の壁や大きな陸上トラックが広がっており、非常に活気にあふれていました。日本の大学と少し違うのが、学生ではない一般の方の姿が非常に多いことです。部活動やサークル活動をしている学生たちのそばで年配の方や子供たちが運動している姿はあまり目にしないような光景でした。我々の所属する中央大学もこのような多種多様な人々が集まる場になってくれたらいいのになと感じてしまいました。そのまま進んで道場に入ると支部の皆さんが私たちを出迎えてくださいました。道場の中に入ると日本から送られたものや空手部の募集用の看板などがあり、台湾でも我々と同じように勧誘とかで苦戦したりするのかと妄想が膨らみました。写真を撮り終え、支部の方に更衣室まで案内された際にはついに稽古が始まるのだなと気持ちが引き締まりました。



## 稽古開始

着替えを終えて軽く準備運動をしているとついに稽古が始まりました。学習院大学の柳田さんから「台湾支部の空手は昔の中央大学のものに似ている。」と言われていたこともあり、どのような型や稽古が見られるのかワクワクしていました。稽古の内容は大学での稽古のように準備運動から始まり、山形支部林支部長による号令で基本動作、移動、型を行いました。極端に量が多かったわけではなかったのですが、湿気が多く、いつもより体力が削られたような気がしました。中国語と日本語が入り混じる稽古というのはなんだか不思議なものがあり、とても新鮮なものでした。最後にそれぞれの型を披露し合ったのですが、台湾支部の皆さんの型は柳田さんがおっしゃっていたようになんだか中大味があって親近感が湧きました。しかし、加藤監督と林丁南さんが松風を披露してくださったのですが、少し違う部分があり、このような解釈もあるのだなと学びを得ることができました。



## 稽古後の食事会

稽古後は皆さんと食事会を行わせていただきました。学生3名がそれぞれの卓にお邪魔し、さまざまな話をさせていただきました。台湾の大学生の生活、便利な中国語、おすすめの観光スポットやご飯屋さんなどたくさんのお話を教えてもらいました。また、皆さんからは日本の文化や日々の稽古のことなどたくさんのお話をいただくことができました。お酒も食事もととても美味しく、とても楽しい時間を過ごすことができました。





#### 4.最後に振り返って

日本語がほぼ通じない環境で過ごすのは少し大変なものがありました。マイノリティ側として過ごす貴重な経験になったと思います。また、言語の壁があっても、空手という共通言語を持つことで親しくなれたことは、武道の可能性を再認識する良い機会になりました。コロナで一時は薄まりかけた台湾支部との関わりを今回の支部巡りで強くすることができたのではないかと思います。これからも、全国の支部だけでなく、世界中の支部の皆さんと関わりを持つことで、松濤會の空手を盛り上げていけるよう邁進していく所存です。このような交流が今年だけで終わるのではなく、後輩たちも続いてくれるよう現在は2～3年生にも支部巡りに参加するよう促しております。今後、様々な支部でお世話になると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。最後になりますが、このような貴重な経験をいただいたことを台湾支部の皆さん、加藤監督、学生連盟を支えてくださる皆様に再度御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

